Survey Camp in Philippines

2012

Place:Matag-ob,Leyte,Philippines

Time:8/19th~ 9/9th (for 21 days)

目次

1. はじめに ・・・・・・・・・・・2

2. FIWC とは ・・・・・・・・・・3

3. 重要人物紹介 ・・・・・・・・4~5

4. 新エンジニアについて ・・・6~7

5. 下見スケジュール ・・・・・8~9

6. 生活状況 ・・・・・・・・・10~12

7. 2013 年ワーク内容・・・・13~15

8. ワーク地決定経緯 ・・・・・・16

9. 重要調査地 ・・・・・・・・17~19

10. その他の調査地 ・・・・・20~21

11. カルビアン市について ・・22~23

12. マラサルテ村について ・・24~25

13. Evaluation・・・・・・・ 26~30

14. 会計 ・・・・・・・・・・・31~32

15. KP・・・・・・・・・・・・・33

16. 保健 ・・・・・・・・・・・34~35

17. 他己紹介 ・・・・・・・・・36~37

18. 感想 ・・・・・・・・・・・38~46

1．はじめに

マサバ村でのキャンプが終わって、余韻覚めやらぬまま下見キャンプが始動し始めた。まず集まったのは、自分を含め 6 人。下見キャンプにしては多いな･･･と思ったものの、キャンプに先入観の無い新しい考えが欲しいということで、結局新メンバーを 1 人加えた 7 人で行くことになった。そうして今回、私たち 7 人が下見キャンプをするにあたって重要視したのは、3 つ。

「確実性」「継続性」「利益の範囲」

いろんな面からみて、現実的に可能なもの。
いつまでもその状態を保てるもの。
世代が変わっても引き継いでいってもらえるもの。
できるだけたくさんの人に利益がわたるもの。

これが、自分たちのキャンプに対する理想像だ。これを下に、現地での下見は始まった。

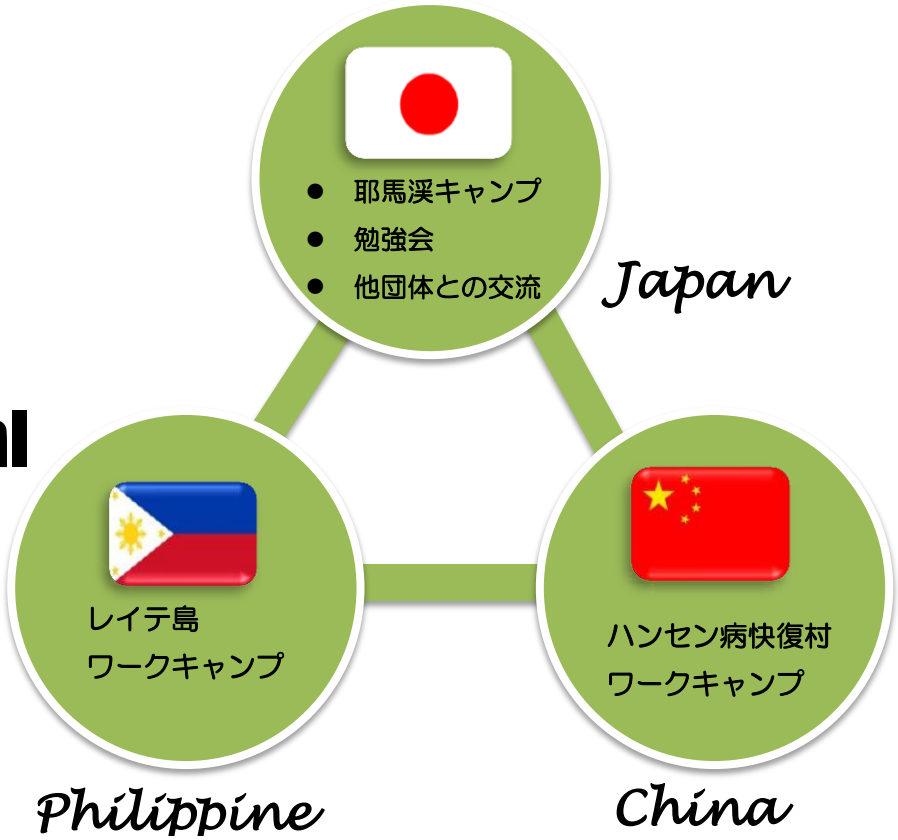
3 週間で、私たちは本当にいろいろな村を見て回った。メインは調査でも、お酒を飲んで、踊って、歌って･･･やっぱり各村の人々との交流が何より楽しかった。市長、エンジニア、村の役員たち、たくさんの人と MTG をし、最終的に私たちが 2013 年度のキャンプ地に選んだのは、サンドニシオ村。どの村も、村人も大好きだった。村を決定する夜は、たくさん迷って、何度も心が揺れた。でもやっぱり決め手になったのはこの 3 つだった。もちろん、可能性を見つけたというだけで、理想のキャンプができると決まったわけではない。ただ、私たちはこの下見キャンプでできることはすべてしてきた。最高の決断をしたんだと自信を持って言える。

そして、この 3 週間のキャンプを無事に終わらせることができたのは、周囲の人たちのおかげだ。これまで一番側で支えてくれてきたエンジニアさんの体調のこともあり、今まで以上に助けが必要だった。そういった意味で、FIWC 九州が築いてきたマタグオブ市の人々とのつながりというものを大いに実感することができた。たくさんの人にありがとうを言いたい。その感謝の意も込めて、来年の本キャンプは必ずいいものにし、「これから」につなげていけるキャンプにしたいと思う。

2012 年フィリピンキャンプリーダー　岩辺かんな

2. FIWCとは

Friends
International
Work
Camp



FIWC は九州（主に福岡）の大学生が主体となり学生のみで国内外で国際協力を行っている学生 NGO 団体です。

【国際活動】

- 中国キャンプ
  ハンセン病快復村へ行き、村人のケアやインフラ整備を中国の大学生と行う。
- フィリピンキャンプ
  フィリピンレイテ島の貧困村を訪れインフラ整備を村人と共に行いながら交流を図る。

【国内活動】

- 耶馬溪キャンプ　　→年 3 回大分県の耶馬溪で農業体験を行っている。
- FP（FIWC Party）　→月1回第4土曜日に「びおとーぷ」で行っているワークショップ形式の勉強会。

他にも自由な発想で自由な活動を行っている柔軟さがFIWC九州の特徴です。また、FIWCは九州の他、関東、関西、東海、広島に支部があり、互いに情報交換を行いながらそれぞれが自立した活動を行っています。

<u>☆キャンプメンバーだけでなく国内活動にも一緒に参加してくれる大学生を募集中！！</u>

3. 重要人物紹介

現地エンジニア：ロクロクさん

1999 年から FIWC 関東のキャンプに参加してくださっている現地のエンジニア。FIWC 九州発足後は九州のプロジェクトのみに関わらずキャンプを様々な面からサポートしてくださっています。今回は体調の関係で GAM と BRGY official との MTG のみ参加してもらいました。FIWC のメンバーを心から愛してくれている、お父さん的な存在です。

サンドニシオ村の村長：アルセニオ

2013 年度のワーク地、サンドニシオ村のカピタン（村長）。常に FIWC メンバーを気遣ってくれる、真面目で優しいおじさんです。英語が苦手だけど、そこは笑顔でカバーします。笑

坂本実玲さん（通称：Merry）

JICA の青年海外協力隊の派遣により、2010 年の秋からマタグオブ市の役場に勤務している日本人。2011 年春のキャンプから FIWC 九州と交流があり、毎回快く支援をしてくださいます。今回の下見キャンプでも survey に同行してくださるなどして、主に言語面で大変お世話になりました。今年 10 月に任期を終えられたので、この下見キャンプが直接的に協力していただける最後のキャンプとなりました。

ダディ・ドドン&マミー・サニー

2009 年のワーク時にお世話になり、それ以降も私たちの活動に協力してくださる元マタグオブ副市長夫婦。下見期間中は、おもに 2 人の家にステイし、毎晩おいしい料理とお酒を振舞ってくれました。それだけでなく、ダディには体調の悪いロクロクさんに変わって、今回初めてエンジニアとして協力していただきました。引き続き春のキャンプでもいっしょに活動を行っていきます。

マサバ村の村長：ピロ

前回のワーク地、マサバ村のカピタン（村長）。相変わらずのお茶目さで、何より日本人女子から大人気でした。笑　マサバ村滞在時は、他の BRGY official とのすばらしいチームワークを見せてくれました。FIWC 九州のことを理解してくれている、頼もしいおじさんです。

山本有里さん

実玲さん同様、JICA の青年海外協力隊の派遣により、保健師としてカルビアン市の役場に勤務している日本人。今回は山本さんからの要請により、カルビアン市の見学をしに行きました。その際、おもにカルビアン市の情報提供・言語面でお世話になりました。

沖山怜さん

実玲さん同様、JICA の青年海外協力隊の派遣により、自動車整備士としてカルビアン市の TESDA に勤務している日本人。カルビアン市訪問時には、食事・寝る場所・移動手段などを提供しくださいました。ファイヤーショーが得意で、子供・そしてオカマに大人気でした。笑

NorWeLeDePAI (North Westerm Leyte Development Parent's Association Inc.)

FIWC 九州と 2004 年から連携体制をとっている現地の NGO 団体。FIWC 関東とも協力しており、フィリピンでワークキャンプをする私達にとっては重要な存在です。この団体は、レイテ島北西部の村々で子供たちの両親が中心となってコミュニティの発展を目指す活動を行っており、世界的な NGO である World Vision のドイツ支部から資金援助を受けています。今回はパスポート・貴重品の管理に加え、マタグオブ市の村の情報提供などをしていただきました。

4. 新エンジニアについて

今回の下見キャンプでは、新ワーク地を決める他に、もう一つ「新しいエンジニアを探す」という目的があった。FIWC 九州発足後から常にいっしょに活動してきたロクロクさんの体調と年齢を考えてのことだった。実際に、ロクロクさんは大きな病を患っており、仕事にドクターストップもかかっている。

まずキャンプが始まってすぐにロクロクさんの家に滞在し、新エンジニアの件を伝えた。ロクロクさん自身それに賛成してくれたのだが、今回のキャンプで見つけるのは難しいと言われた。その理由は以下のようなものだった。

ロクロクさん

・正規エンジニア（大卒）は高額で、雇うのは難しい。
・日本人（FIWC 九州）に理解が無いので、慎重に人を選ばなければならない。
　→多額のお金をもらえると思っている。
・仮にエンジニアになったとしても、報酬の高い仕事があればそっちにいってしまう。
　→途中で放棄される可能性がある。
・自分も昔から後継者を探しているがなかなか見つからない。

以上のことより、3 週間での survey と新エンジニア探しの同時並行は不可能だと判断。しかし、今回の下見キャンプでは、「FIWC 九州を理解している」現地人の存在が不可欠だった。そのためロクロクさんが最も信頼をおいている友人である、ダディ・ドドンに協力を依頼した。

ダディ・ドドン

ダディ・ドドンはサンセバスチャン村のワークの際に FIWC 九州と交流をもって以来、ほぼ毎年下見キャンプで関わっている。そのためロクロクさんの次に FIWC 九州を理解している現地人だといえる。また元副市長であるという点からとても人脈が広い。今回の下見キャンプでは、ロクロクさんと連携を取りながらすべての survey に参加し、通訳・説明をしてくれた。2013 年の春のキャンプでも、同様に協力してくれる予定だ。ただし、ダディはエンジニアではないため、どうしてもエンジニアが必要な際は市のエンジニアに協力を依頼する必要がある。

【今後について】

今回はダディ・市のエンジニア・市長など、多くの人の協力により下見キャンプを無事終了させることができた。今後は引き続きロクロクさんが FIWC 九州にふさわしいエンジニアを探す、という結論になった。私たちにできることはないのかと聞いたところ、現地に精通していない日本人が探すのはリスクが大きい、ということだった。そのため、新エンジニアが見つかるまでは今回のようなやり方で進めていくことになりそうだ。しかし、ダディにもロクロクさん同様限界があるため、早急に新エンジニアを探さなければならないことに変わりはない。

現在の私たちにできることは、ロクロクさんやダディの負担をできるだけ減らすことだ。今まで築いてきたマタグオブ市の人脈をうまく活用すれば、大抵のことは対処できる。今後はそういった方針を取りつつ、ロクロクさんの新エンジニア探しを全力サポートしていく必要がある。

ロクロクさんファミリー

5. 事前・下見スケジュール

▼MTG スケジュール

6/ 4	第 1 回 MTG@あすみん	8/7	第 6 回 MTG@あすみん
6/18	第 2 回 MTG@あすみん	8/19～9/9	下見キャンプ
6/26	第 3 回 MTG@びおとーぷ	9/18	第 1 回帰国後 MTG@びおとーぷ
7/2	第 4 回 MTG@あすみん	10/12	第 2 回帰国後 MTG@あすみん
7/9	第 5 回 MTG@あすみん	10/27	キャンプ報告会@びおとーぷ

▼キャンプ行動日程

8/19　16:45 発福岡空港→23:45 着セブ空港
セブ島で一泊（シランガンホテル）

☆8/20 5:45 発セブ港→着オルモック港（レイテ島）
ロクロクさんお見舞い＆ロクロクさん宅に宿泊

☆8/21 国民の休日のためロクロクさんの家族と海で遊ぶ

★8/22　ノルウェルで MTG
表敬訪問＊
カンソソ村＆サンドニシオ村の survey
ダディドドン＆マミーサニー宅に宿泊

★8/23 イメルダ村＆サンマルセリノ村の survey
カルビアン市訪問（かんな、はらちゃん、まーちゃん）

★8/24 カンバトバト村＆マラサルテ村の survey

★8/25 サンドニシオ村の survey
マサバ村に滞在（2 泊 3 日）

★8/26 前回ワークの evaluation
マサバ村の役員と MTG

8/27 ダディ・ドドン＆マミー・サニー宅に移動

★8/28 市長と MTG
サンビセンテ村の survey

★8/29 ブラク村の survey
ワーク地決定 MTG

★8/30 サンドニシオ村へワーク地決定の報告

☆★8/31 サンドニシオ村に滞在（5 泊 6 日）

9/1 GAM※にむけて宣伝活動＆闘鶏見学
ディスコ

☆★9/2 サンドニシオ村にて GAM※

9/3 休息日

★9/4 ダディドドン、サンドニシオ村の役員と MTG

★9/5 市長と MTG （かんな、しぇい）
マサバ村に滞在（3 泊 4 日）

☆★9/6 サンドニシオ村でミニ farewell party

9/7 ロクロクさんと最終 MTG（かんな、しぇい）
ノルウェル訪問
ディスコ

9/8 オルモック→セブ島へ移動

9/9 1:05 発セブ空港→9:15　着福岡空港
無事帰国！

＊表敬訪問…マタグオブ市の市役所を訪問し、市長さんにあいさつしたり、警察署にパスポートのコピーを渡したりする

※GAM（General　Assembly　Meeting）…通称ジェネアセ。村人を集めてワーク、FIWC について説明し、理解を得る場

マサバ村…前回キャンプのワーク地

☆…ロクロクさんが FI に協力してくれた日
★…ダディドドンが FI に協力してくれた日

6. 生活状況

衣

フィリピンは毎日暑く、最高気温が 30℃を超える日がほとんどであり、T シャツ、半ズボン、クロックスなどかなりラフな格好で生活していた。ただし朝晩に冷え込むこともあるので長袖のパーカーなど、羽織るものが必要。
虫よけ、日焼け防止のためにスポーツ用アンダーウェアを着たり半ズボンの下にレギンス、タイツを履いたりしているキャンパーも多かった。これらは洗濯しやすく乾きやすいため便利。
また日差しが強いため帽子もあった方がよい。サンダル、T シャツ、ズボンなどたいていの衣類は現地でも調達でき、日本と比べて格安で購入できるため途中で服を買い足すメンバーもいた。

食

フィリピン料理は、豚肉、鶏肉、野菜、魚を醤油や塩、味の素などで味付けしたものが中心で、比較的日本人の味覚に合うものであった。主食は米でおかずが 1~3 品という献立が多かった。お祝い事がある日は豚ややぎの丸焼きが出る。また、バナナ、ココナッツなど亜熱帯のフルーツもたくさん食べることができた。飲み物は食事のときは水かコーラ、その他にコーヒー、カフェオレ、オレンジジュースなども飲んでいた。生水を飲むとおなかを壊す可能性があるで、必ずミネラルウォーターを飲むようにしていた。

住

Survey 期間中はリバーサイド村にあるダディ・ドドンとマミー・サニーの家に泊めてもらっていた。ベッドや長椅子、または床にゴザを敷いて寝た。サンドニシオ村、マサバ村滞在中はバランガイホールという村の公民館を貸してもらって、床にゴザを敷いて寝た。

【風呂】

日本のような湯船につかるお風呂はフィリピンにはなく、ポリバケツやタンクに溜めてある水を手桶ですくって水浴びする。現地ではこれを「リーゴ」と言う。共用の洗濯場など屋外でリーゴをする場合もある。その場合は服を着たまま水を浴びる。夜水浴びをすると体が冷えて風邪をひくことがあるので主に朝、昼に行う。シャンプーなどはオルモックでも安く買うことができる。

【洗濯】

洗濯機はないので洗濯はすべて手洗いで行った。タライに水をため、粉末洗剤で汚れを落とす。日本人は手洗いになれていないため時間がかかる&汚れが落ちない…。干すときは家の周りのロープ、竿、柵などに干していた。ハンガーやタライはマーケットで購入。当番制にして、みんなの分をまとめて洗っていた。

【トイレ】

便座がなく、低くて小さい洋式便器のような形のものが主流。用を足した後はポリバケツに溜めた水を手桶ですくって流す様式。紙は流せないため、ゴミ袋を持って行き、ゴミとして捨てていた。うまく流しきれずに詰まることもあるので要注意!!

【買い物】

サンドニシオ村からは「ハバル」と呼ばれる中型バイクで 30 分くらいのところにマタグオブ市のマーケットがあり、食料品、衣類、薬など生活に必要なものはほぼそこで調達することができた。また、村の中には「サリサリ」と呼ばれる小さな個人商店があり、お菓子、飲み物、お酒などちょっとした買い物をすることもできた。また、マタグオブから車で 1 時間ほどのところにあるオルモックという港町には、村では大きなスーパーや換金所があり、マーケットではできない買い物や、日本円からペソへの換金などもできた。

【交通】

Survey などで近距離を移動するときは「ハバル」と呼ばれる中型バイクや「トライシクル」というバイクに屋根付きサイドカーをつけたような乗り物に 3~4 人乗って移動した。サンドニシオ村やマサバ村など市の中心部から遠い村から移動する場合は「モルティカブ」と呼ばれる軽トラックの荷台に乗って移動することが多かった。オルモックなど遠くへ行く場合はマタグオブのターミナルから出るバスを使った。その他、空港―セブ港間はバン又はタクシー、セブ島―レイテ島間はフェリーで行き来した。バン、タクシーは高額な運賃を吹っかけてくるドライバーもいるようなので値段交渉はしっかりと行い、乗る前に料金を確かめる。また、降りるときは忘れ物がないかどうかをきちんと確認し、もしもの場合に連絡を取るためできるだけタクシーのナンバーを控えておく。

7. 2013 年　春　ワーク内容

〈概要〉

場所：フィリピン共和国レイテ島マタグオブ市サンドニシオ村

内容：BRGY River Road Concreting（川の中を通る道のコンクリート舗装）

期間：2 週間程度

費用：

FIWC	P135,000（約 27 万円）
村	P110,000（約 22 万円）
市	P150,000（約 30 万円）
総額	P39,5000（約 79 万円）

〈詳細〉

村	サンドニシオ	人口	396 人
問題点	村から市の中心地へ行くときに通る川に問題がある。その川には橋が無いため、車やバイクは川の中を通ることになる。川の中は凸凹が激しく、そのすぐ横は滝になっているため、雨天時などは非常に危険である。また水に浸かるため、服が濡れたりバイクが壊れたりすることもある。歩行用の橋はあるのだが、現在手すりが壊れており通行には危険が伴う。		
場所と交通手段	移動手段は主に車、バイク、徒歩。バスは通っていない。マーケットからバイクで 20 分程度。		
備考	・村が小さく貧しいため、橋を作るための予算を用意できない。		

〈ワーク内容〉

今回のワークでは下図のように川の底にコンクリートを敷いて車やバイクが通りやすい道を作る。当初は滝への転落を防ぐためのフェンスをつけるということになっていたが、大雨になるとすぐに壊れて流れてしまうので、結局フェンスはつけないことになった。

現在のサンドニシオ村の川

完成理想図(カンソソ村の道)

〈予算〉

【FIWC 予算の内訳】

資材・ツール代	P100,000
米代	P10,000
感謝料＋予備費	P25,000
FIWC 総額	**P135,000**

・資材＆ツール代

・米代･･･下記参照

・感謝料＋予備費･･･ロクロクさん・ダディへの感謝料と緊急時の予備金。

（資材・ツール代詳細）

セメント	P36,750
小石	P21,600
土	P18,000
バール	P9,750
ワイヤー	P1,125
木材	P4,800
ツール	P8,000
総額	P100,025

資材は本キャンプでオルモックを訪れた際に FIWC が直接店で購入する。そうすることで安く手に入れることができ、資材遅れも防ぐことができる。

【村の予算の内訳】

バヤニハンの食事代	P50,000
米代	P10,000
資材代	P50,000
村総額	**P110,000**

・資材代･･･主にセメント代

☆「米代」「バヤニハンの食事代」について

サンドニシオ村は小さく貧しいため、働き手がバヤニハンとして来ると生活に支障をきたす可能性がある。そこで今回、ワークに参加してくれた 18 歳以上のバヤニハン（サンドニシオ村に限る）には、１日１家族２kg の米を配給することにした。そのためこの米代の予算として FIWC・村それぞれから P10,000 ずつ出すことになった。

ただし、18 歳未満の人や、サンドニシオ村以外からワークに参加してくれた人に対しても「バヤニハンの食事代」から毎回昼食が提供される。米代とは別にこの予算を組んだ理由は、バヤニハンに確実にワークに参加してもらうためだ。また、18 歳未満の人にお米を渡せない分、FIWC 独自にプレゼントを考える。

米や昼食の関係から１日 20 人のバヤニハンを予定しており、多くなりすぎたり少なすぎたりしないよう、村がその数を管理する予定だ。

【市の予算の内訳】

資材代	P150,000
市総額	**P150,000**

市の資材は主にセメントで、川から村に続く坂道のコンクリート舗装にあてる。この予算は FIWC と村の予算で行うワークが終わったあとに使われる。

もし予算に余裕が出た場合はコンクリート舗装の長さをできるだけ伸ばし、Foot Bridge（歩行用の道）に続く道もできるだけコンクリート舗装しようと考えている。また、Foot Bridge は手すりが壊れており、これについてはすでに村が手すり修復のための資材を用意しているため、期間に余裕があれば手すりの修復も行うことになっている。

サンドニシオ村の Foot Bridge

問題の川。左は滝になっている

8.ワーク地決定経緯

今回の下見キャンプでは前年同様ビラバ市への移動を考えたが、ロクロクさんの不在、選挙前ということをふまえ『マタグオブで調査をしてニーズのあるワークがあればそこでキャンプを行う』という大前提をおいた。理由は以下のとおりである。

- 新エンジニアを探すという目的もあり、時間的余裕がない。
- ビラバ市には過去に何度も下見に行っており、村人に期待を持たせてしまう。
- ロクロクさん不在かつ選挙前に新しい関係を一から築くのはリスクが大きい。
- 一度別の市に移動するとマタグオブ市に戻ってくることが難しいため、マタグオブ市の村に問題が残っていないかもう一度確認したい。

出発前に青年海外協力隊の実玲さんの協力を得て調査を行ったところ、21 の村のうち 17 の村から下見の要請があった。今回はその内 7 つの村で調査を行なった。その結果、ワークの規模、ニーズなどから、カンソソ、サンマルセリノ、カンバトバト、サンドニシオの 4 つの村がキャンプ候補地として挙がった。村の印象、ワークの緊急性、利益の範囲、予算などの話し合いを重ね、最終的に 2013 年のワーク地は**サンドニシオ村**に決定した。

【キャンプ地決定のポイント】

① カンソソ
政治的な問題があり、中立な立場を保つため FI は介入しないほうがいいと考えた。

② サンマルセリノ
今までインフラ整備など、様々なことを自分たちで実行しており、積極性、行動力がある。そのため、FIWC が介入せずとも村で問題を解決できると判断した。

③ カンバトバト
ニーズも高く、緊急性も非常に高いが、村の積極性・利益の範囲を考えるとワーク地決定とまでには至らなかった。

④ サンドニシオ
言語面などでやや問題はあるものの、上記の 4 項目全てにおいて他のどの村よりも FI のワークに適していると考えられた。また、今回のキャンプのテーマ(※)にも最も沿っていた。

※キャンプテーマとの関連性

今回のテーマから私たちが重視することは**「確実性」「継続性」「利益の範囲」**であり、サンドニシオでのワークは 4 つの村の中で最も私たちのテーマに沿っていると言える。

「確実性」…ワークの規模と予算を考えると、FI、村、市の予算を全て合わせれば確実に下見で立てたプラン以上のワークができる。

「継続性」…ワーク内容がコンクリート舗装であることから、雨などの影響も受けにくく長期間状態を維持できる。また、普段村人が使用している道であるため、マサバの前例に倣ってメンテナンスを要請すれば何かしらの対応が期待できるのではないかと思う。

「利益の範囲」…ワーク地となる川はサンドニシオ村をはじめとする山奥の村々と市のマーケットを繋ぐ一本道の一部であり、他のどの調査地よりも利益は広範囲に渡ると考えられる。

9. 重要調査地

調査を行なった村の中で、最終的にキャンプ候補地として挙がった村。

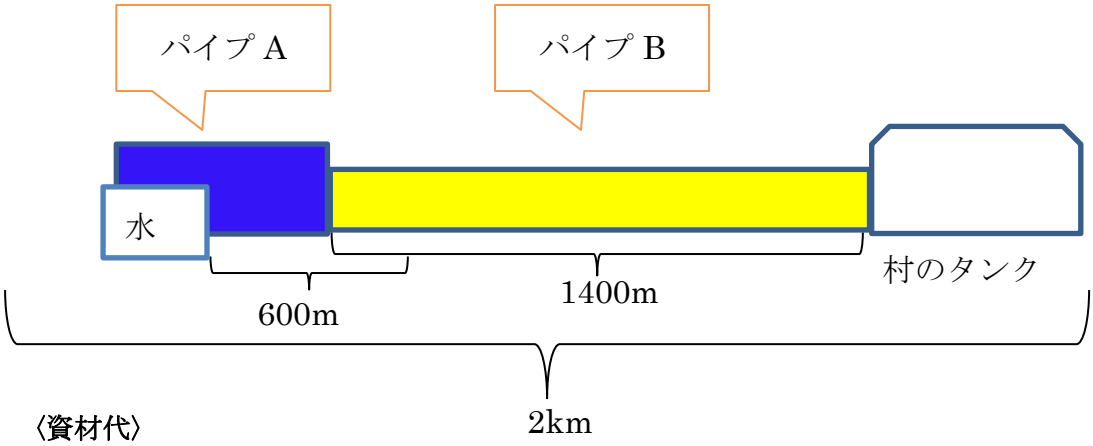
〈概要〉

村	カンバトバト	人口	407 人	集落	4 つ
ワーク	Water system（水道設備）の改善				
問題点	午前中は問題ないが午後になると水が出なくなる。今回尋ねたときまだ昼だったがタンクからはほんの少ししか水がでなかった。また水源から遠くなるほど水がない。				
予算	FIWC：P66,000　村：P66,000　市：P66,000 計 P200,000（予備費込）				
場所と移動手段	移動手段はバイク。マラサルテのさらに山奥。とても山奥。				
備考	・バヤニハンのサポート代として P30,000 が必要。 ・村の道はほぼコンクリート舗装されており、外観は比較的裕福。				

〈ワーク内容〉

村から 2km 離れた水源にタンクを作り、パイプをつなぐ。

- 水源～600m 地点　→　パイプ A（長さ 60m、直径 1.5 インチ）×10 本
- 600m 地点～村　　→　パイプ B（長さ 100m、直径 1 インチ）　×14 本



〈資材代〉

パイプ	パイプ	P60,000（P6,000×10 本）
	細いパイプ	P63,000（P4,500×14 本）
	計 P123,000	
インテクタンク	P20,000	
総計	P143,000	

〈概要〉

村	カンソソ	人口	800 人以上	集落	7 つ
ワーク	Foot bridge（歩行用の橋）の建設				
問題点	村から市の中心地へつながる道が常に浸水していて（足が浸かる程度）、雨の日は増水するため通行不能になり、子供たちは学校に行けなくなる。				
予算	FIWC：P40,000　村：P60,000　市：150,000 計 P250,000				
場所と移動手段	市の中心地から村まで 2 ㎞、徒歩３０分				
備考	・村人（特に山の上に住んでいる人たち）は非常に貧しく、無償で働く余裕がないので、労働力を確保するには若干の給料が必要。 ・Water system（水道設備）にも問題があるが、すでに村側にプランがある。また、資金援助の申請をしていてそのお金を使う予定。				

〈ワーク内容〉

雨天時に人とバイクが通れるような橋を作る。期間は１か月を予定。

※政治問題について

去年の調査の際に、カンソソ村の役員の中で政治問題があることが発覚した。村長に反抗する役員が 2 人いたのだが、そのうち１人は既に任期を終了しており、もう１人は現在も役員として活動していた。結論、政治状況は去年と変化していないといえる。

晴天時でも常に水がある状態

〈概要〉

村	サンマルセリノ	人口	1000 人	集落	4 つ
ワーク	道のコンクリート舗装				
問題点	村から市の中心地に行くための道で雨が降ったら泥状になり、通ることができない。また、小石を敷いていないために凸凹がひどい。				
予算	村：P150,000　FIWC：P150,000 市：P150,000　（P50,000 余裕があり、話し合って調整できる。） 計：P400,000				
場所と移動手段	市の中心地から村まで 2km。　バイク・徒歩で移動する。				
備考	・２ケ所（50m と 20m）が国会議員により既に舗装済。 ・以前土と小石で舗装しようとしたが雨で流されてしまった。 ・Housing Project（住宅作り）をしていた。 ・村の役員がとても積極的で、好感が持てる。				

〈ワーク内容〉

長さ 50m、幅 3m、厚さ 15cm（変更可能）のコンクリート舗装が必要。期間は１か月を予定。ワーク時には市からコンクリートミキサーをレンタルすることができる。

問題の道の様子

10. その他の調査地

〈概要〉

村	イメルダ	人口	700 人	集落	なし
ワーク	デイケアセンター（幼稚園）のトイレ、天井、フェンスの修復				
問題点	4 年前の台風でデイケアセンターの天井が一部壊れてしまった。またトイレのパイプも壊れており、子供たちは家まで帰ってトイレに行っている。フェンスも壊れていて、竹のフェンスでカバーしても子供たちが壊してしまう。				
予算	FIWC：P50,000　BRGY：P50,000 計 P100,000				
場所と移動手段	隣がビラバ市である。バイクや徒歩で行く。				
備考	・生徒数 20 人。 ・デイケアセンターの前はハイウェイで、国の法律でハイウェイのセンターラインから 10m 以内は何も建ててはいけないことになっているのだが、フェンスや遊具が 10m 以内に建ててあった。				

〈ワーク内容〉

デイケアセンターのトイレ、天井、フェンスの修復。

〈FIWC の判断〉

非常に規模の小さいワークである。洪水対策を今回でできる範囲だけやるという案も出たが中途半端な形までしてあとは村に任せるというのはリスクが大きいと判断した。また利益の及ぶ範囲も狭いためワーク地には選ばなかった。

デイケアセンターのトイレ

〈概要〉

村	サンビセンテ	人口	2036 人	集落	6 つ
ワーク	道のコンクリート舗装				
問題点	雨が降ると道が通れなくなる。また隣の山で土砂崩れが起きると、Water system（水道設備）にも問題が出る可能性がある。				
予算	FIWC：P150,000　BRGY；P150,000　市：P150,000 計 P450,000				
場所と移動手段	バイク（P20～30）で行く。　マーケットから 20 分程度。サントロサリオ村の近く。				
備考	・道がコンクリートになると米を干すのにも使える。 ・この道は市の中心地につながる唯一の道であり、使用頻度が高い。				

〈ワーク内容〉

長さ 50m、幅 4m(or3m)、厚さ 15m(変更可能)のコンクリート舗装。期間は 1 か月を予定。

〈FIWC の判断〉

ニーズは高いがこの村は小学校がすごくきれいだったり、村の中心の道がほとんどコンクリート舗装されていたりなど比較的裕福で FIWC が介入しなくとも村だけで改善できるのではないかと考えた。また該当の道はグラベル（小石）が敷いてあり、緊急性もそこまでみられなかったのでワーク地には選ばなかった。

サンビセンテ村の小学校

〈概要〉

村	ブラク	人口	500 人以上	集落	3 つ
ワーク	道のコンクリート舗装				
問題点	この村は山の上にあり、雨が降ると村から降りるのに使う道が通れなくなる。また道には小石がすでに敷いてあるのだが、雨が降ると流されてしまう。				
予算	村はお金がなく出せない。				
場所と移動手段	サンセバスチャンからさらに山のほうに向かったところ。マーケットからバイクで 30 分程度				
備考	この村は Housing Project（住宅作り）を実施しており、現在ワークにつかえるようなまとまったお金を提供できない。				

〈ワーク内容〉

サンビセンテと同じ内容で長さ 50m、幅 4m(or3m)、厚さ 15m(変更可能)のコンクリート舗装。市も協力してくれる。期間は 1 か月を予定。実際問題のある道は 2km だが全部を舗装することは FI では無理なので一番危険な箇所だけを舗装する。去年のマサバのように道を平らにし、小石を敷く舗装の仕方だと 2km をカバーできるがすぐに壊れるから意味はない。

〈FIWC の判断〉

そもそも村が予算を提供してくれないとワークは不可能である。また道よりも優先的に Housing Project を実施していることからそこまでニーズが見いだせなかったのでワーク地には選ばなかった。

11. カルビアン市について

今回、カルビアン市で青年海外協力隊として勤めている山本有里さんから、ぜひカルビアン市でもワークをして欲しいという要請があった。しかし今回は事前にマタグオブ市でキャンプをすると決定していたので、その旨を伝えた上で、あくまで「見学」という形でカルビアン市を訪問した。

レイテ島カルビアン市	
人口	30,0011人（2007年）
世帯数	6,507人（2009年）
村の数	53
備考	レイテ島の最北端、サンイシドロ、レイテレイテに接する。州都であるタクロバンからバスで3時間強かかる。（マタグオブ市からも同様）その貧困率はレイテ州トップ3に入る。

* wikipedia

カルビアンには、健康に関する重要な課題が大きく分けて４つある。

①医療保健行政担当職員の知識・技術・意識不足。

②インフラ未整備により医療へのアクセス困難と衛生環境の課題が存在する。

③医薬品の管理不備による供給量不足。

④RHU（カルビアンの医療保健行政を担当する部門）マンパワーの不足である。

→今回の要請は②に関するものである。

道の状況

↓ナショナルロード

カルビアンで舗装（コンクリート）されているのは、市街地の部分と、隣町へ向かう道路の一部など、ほんの少しにすぎない。ナショナルロード（幹線道路）という一番広い道は概ね小石が引かれているものの、海沿いは常に水たまりがあり、状況はよくない。ナショナルロードから村へ入っていく道は道路というより、小道・畦道程度であり、村によっては雨が降るとナショナルロードに出られなくなることも。また、FIWC が見学に行った日は晴れの日が続いていて道が乾いていたにもかかわらず、地質のため滑りやすく、靴が泥の中に埋まって壊れたりした。普段から移動にバイクや車が使用できないため、大きな荷物を運んだりする際は主にカラバオ（水牛）を使っている。ただし、このカラバオの足跡や荷物を引いた跡が道に残ってしまうため、道が乾いたとしてもとても歩きにくくなってしまう。

橋の状況

カルビアンには、道に加え交通に重要な問題がもう一つある。それは、橋の不足だ。今回見て回っただけでも、４つの問題の場所があった。もともと橋が存在しない場所もあれば、架かっていた橋が壊れてしまっている場所もあり、状況はとても悪かった。橋が存在しないため、村人は多くの困難を強いられている。例えば、村に住んでいる子供たちは毎日この場所を通って市街地の学校へ行くため、雨が降ると通行できなくなる。また、橋があったとしても、下の写真のようにいつ壊れるかわからない。まず道の状況が悪く資材を運んでくることが難しいため、橋の建設の目途は立っていないのが現状だ。

壊れた橋。下の人が立っている場所は普段川になっている。この日は数日前から晴れの日が続いていたため水が無かった。

本来橋が必要な場所。こちらも同様、普段は川になっている。このような場所がほかにも多数存在する。

【見学を終えて】

今回実際に足を運んでみたが、状況は予想以上に悪かった。現状として「村」でなく、「市」規模で問題が存在するため、FIWC がすぐに介入していくのは難しいと思われる。まず道の状態を改善するのが最優先であるが、問題を抱えた道の範囲はとても大きく、一部 FIWC が改善できたとしても状況はほぼ変わらないだろう。しかし、この道が多くの人々の生活に支障をきたしており、その影響は生命にまで及んでいるという現状は、決して見過ごすことはできない。

最近では、カルビアン市において自宅分娩を禁止し、自宅分娩をした際にはペナルティーを下すという条例が施行された。（ペナルティーを実施できていないのが現状）しかし、医療機関までの交通が整っていない場所に住む妊婦が多数存在するため、もしこの条例通りに動き始めた場合、事態はひっ迫してくると考えられる。

今後、どのようにしてカルビアンと関わっていくかは未定である。しかし今回このようにして新しい場所の情報を多く得ることができたことは大きな収穫だったといえる。

12. マラサルテについて

マラサルテ村は 2011 年春にキャンプを行なった村で、ワーク内容は Water system の改善だった。去年の下見キャンプでこの村を訪れた際、FIWC が作った水源タンクが地滑りのため壊れていた。その後村側から新しいタンクを作るための資金がほしいと言われたので、今回現状調査を行った。

〈問題点〉

- プロパー（村の中心の集落）に水が流れていない。
- 今の水源からは十分な水を得ることができない。

→ 今のところシティオボンボンには FI が作ったタンクからなんとか水が届いている。しかし、タンクの破損・水源の水量不足によって FI のタンクから村のタンクに水が流れてないため、プロパーまで水が行き届いていない。

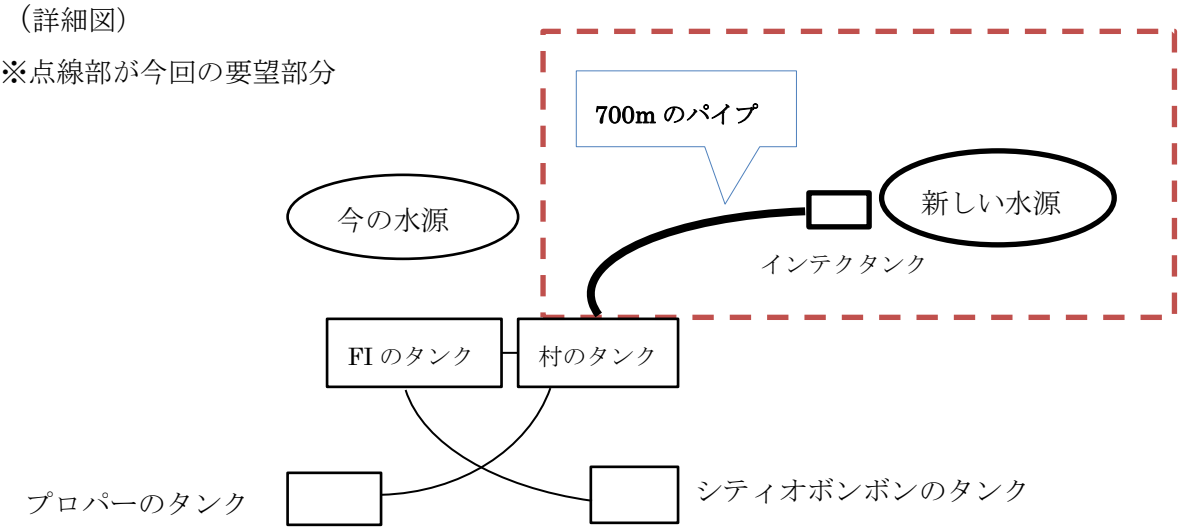
〈村側の要望〉

今の水源では十分な水が確保できないため、村のタンクから約 700m 離れたところにある水源を新しく開拓したいということ。村人によれば、この水源は非常にいい水源で、プロパーとシティオボンボンに十分な水を供給することができるという。

内容（図の点線部）	・インテクタンク（水汲み用）の建設 ・インテクタンクと村のタンクを繋ぐパイプ（700m）の設置
予算	P40,000

（詳細図）

※点線部が今回の要望部分



これらの調査を行い、マラサルテのキャンパーに話し合いをしてもらった上で、今回FIWCはマラサルテに**資金援助をしない**ことに決定した。理由は以下のとおりである。

- 村だけでできることがまだある。
- プランが曖昧すぎる（新しく作ったタンクが壊れないという保証がない。）
- FIWCに頼る前に市の協力を仰ぐべき。
- FIWCは資金援助の団体ではないため資金だけを提供するという形は好ましくない。
- 一度援助すると以後もずっとFIWCに頼ってしまう可能性がある。

上記の決定を村長に伝えたあと村長と共に市へ出向き、市からの資金提供を要請した。市は前向きに検討するということだったので、FIWC は今後もマラサルテ村の様子を見守っていくことにする。

13. Evaluation

★What's Evaluation?

前回のキャンプ地を再訪し、前回行なったワークが現在も村に利益をもたらしているか評価するもの。今回の下見キャンプでは、前回のキャンプ地、マサバ村を訪問した。

◆2012 年度のワーク

【概要】

場所：フィリピンレイテ島マタグオブ市マサバⅡ村

期間：2012 年 2 月 21 日～2012 年 3 月 25 日

内容：村の公道の舗装

参加者：FIWC 九州（17 名）・現地エンジニア（１人）・村人（多数）

【ワーク内容】

前回のワークでは、砂や小石を使って村の公道を 2km にわたり舗装した。

●問題点

雨や地質の関係で、マーケットやマタグオブの学校までつながっている一本道の凹凸が激しく、移動が困難。車やバイクなどは、数回往復すると壊れてしまう。また雨が降ったあとはとても滑りやすくなり、徒歩であっても危険になる。

●FIWC の行なったワーク

（滞在期間中）

・スリップする原因となっている土を除去する。

・道の凹凸を無くす。

・道の端にキャナル（溝）を掘って水はけを良くする。

・小石を道路に敷いて、スリップしないようにする。

（帰国後）※資金は FIWC が負担、村人のみでのワーク

・特にひどい場所にコルバート（排水管）を埋めて水はけを良くする。

◆　ワーク後の状況

・車やバイクが以前よりもスムーズに通行できるようになっており、小石を引いた場所は雨が降ってもすべりにくくなっていた。

・キャナル（溝）は掃除をされているところと、ほぼ埋まってしまっているところとがあった。土砂崩れも原因の一つと考えられる。

・大雨が続くと、Priority Area（特に状態の悪かった部分）は水が溜まって泥状になり、バイクなどはスリップしてしまっていた。しかし通れなくなるということはなく、車での通行ならば大きな問題は無かった。

・　マーケットから村までのバイクタクシーの値段が安くなっていた。

・　人と物資の通行量が増えたため、村への経済効果が見てとれた。

（具体例）　・サリサリが 2 つから 4 つへ増加

・村の所有するバイク数の増加　　etc

・道の端々にメンテナンスをした跡があった。実際に週に 1 回村の役員でメンテナンスを行い、可能な時は食事を提供してバヤニハンと共にワークを行っていたという。

※村は、村全体の予算の中に「メンテナンス枠」というのを設けており、それをバヤニハンの食事代としていた。ただし、現在はほとんど無くなっている状態。

◆　Evaluation 結果

〈1〉FIWC 九州のワークについて

1. **マサバの道をどう思いますか？**（回答者：20 人）

GOOD ：20 人　NOT CHANGE：0 人　BAD：0 人

2. **バイクタクシーの料金は安くなりましたか？**

YES：19 人　　NO：0 人　　（回答者：19 人）

その金額は？　・P60（3 人）

・P70（13 人）

・P80（3 人）

3. **どうやってマーケットへ行っていますか？**（回答者：17 人）

・徒歩（1 人）

・バイクタクシー（15 人）

・場合による（1 人）

4. **FIWC九州が帰国したあとメンテナンスはしましたか？** （回答者：18 人）

YES：17 人　　NO：１人

（YES）　その頻度は？

・週に 1 回（12 人）

・月に 2 回（4 人）

・未回答（１人）

（NO）　その理由は？

・学校に行っているから

キャナル（溝）を壊さないための注意書き

5. **これから道の状態を保つことができますか？** （回答者：18 人）

YES：18 人　　NO：0 人

6. **FIWC九州が帰国したあと道に何か問題はありましたか？**

（回答者 18 人）

YES：7 人　　NO：9 人　　わからない：2 人

その内容は？　・雨が降ると道が壊れてしまう（１人）

・雨が降ったあとはバイクに乗るのが困難（１人）

・未回答（5 人）

7. **他にFIWC九州に改善できる問題はありますか？** （回答者：18 人）

YES：10 人　　NO：8 人

その内容は？　・道をコンクリートにしてほしい（4 人）

・道の状態を維持してほしい（１人）

・小石がもっとほしい（１人）

・もっと道の状態を良くして欲しい（2 人）

・water system を改善してほしい（１人）

・未回答（１人）

〈2〉FIWC 九州の滞在について

1. **FIWCメンバーのステイを楽しんでくれましたか？** （回答者：16 人）

YES：16 人　　NO：0 人

2. **FIWCメンバーの行動に苛立ったことはありますか？** （回答者：16 人）

YES：１人　NO：14 人　どちらともいえない　１人

その理由？　・文化の違いが感じられた。

・10 代の青年達ともっと交流をもって欲しかった。

3. **FIWCメンバーはフィリピンの文化を理解、尊重していましたか？**

（回答者：18 人）

YES：18 人　NO：　0 人

4. **FIWCメンバーと行なったもので1番楽しかったものは何ですか？**

（回答者：19 人）

・Japanese Festival（3 人）

・ワーク（13 人）

・ホームステイ（0 人）

・その他（2 人）

・全部（2 人）　　※複数回答可

5. **FIWC九州の活動目的をどのように思いますか？** （回答者：17 人）

・道を改善し、村の経済をよくする

・道を改善し、村人を助ける

・人助けをし、友達をつくる

・問題を改善する

・村を助ける

・村の状態を良くし役場から遠くても快適に過ごせる手助けをする

・フィリピン人の生活状況を把握していない政府に代わって貧しい人を助ける

・フィリピン人を助ける

◆　追加分のワークについて

今回 evaluation でマサバ村を訪れた際に、村側から前回のワーク費の残りが欲しいと言われた。村側の主張は、舗装されていないエリアを改善するための小石代が欲しい、というものだった。FIWC 九州は、下見キャンパー、そしてマサバキャンプのリーダーたちの意見を下に、未舗装の道を改善する為に必要なお金を負担することに決定した。以下詳細。

内容	未舗装の道200mに敷く小石代
決定理由	・未舗装のエリアがFIWC九州のワーク予定エリアだったから ・メンテナンスの努力が見てとれ、今後もいい状態を維持していきたいという村人の意志が伝わってきたから
金額	P10,000（うちワーク費の残りP4000）
金額決定経緯	前回、業者で手配した小石と、FIWCが村人から買い取った小石の2種類があった。今回は後者を選択。前回キャンプと同じ計算方法で200mの道の舗装に必要な金額を決定し、ワーク費で足りない分（P6000)は下見キャンパーの生活費から負担することにした。

追加分のワークをする村人たち

お金を渡した次の日の朝から追加分のワークが開始され、1 週間もかからず終了した。大雨で道が通れなくなる前に舗装することができたので、村人も喜んでいた。

【総括】

やはり、大雨が降ると道は通行しにくくなってしまうものの、ワークをする前と比べると、その状態は確実に良くなっていた。先にも挙げたように、それは目に見える形で村の利益となっており、村人たちも満足していた。ただ、村人自身には今の状態を維持しようという意志があるのだが、今後は金銭的に問題が浮上してくると思われる。この問題をいかに乗り切るかが、これからのマサバ村の課題だ。

ほとんどの村人が FIWC 九州の滞在を楽しんでくれたのだが、一部自分たちの行動を改善しなければならないことがありそうだ。この evaluation での反省を次回からのキャンプに生かしていきたいと思う。

14. 会計

[仕事内容]

・ 金銭の徴収、換金、管理

・ 毎日の収支記帳

[料金の目安]

● 宿泊費

シランガンホテル(セブ島)

シングルベッド 675p/部屋、泊

ダブルベッド 875p/部屋、泊

● 交通費

・ 船

(セブ→オルモック) 750p/人

・ バン

(シランガン→船乗り場) 900p/台

・ バス

(マタグオブ→オルモック) 40p/人

・ モルティカブ

(オルモック→アルブエラ) 65p/人

(アルブエラ→ノルウェル) 75p/人

・ ハバルハバル

(マタグオブ→サンドニシオ) 30p/人

(サンドニシオ→サントロサリオ) 50p/人

・ レート

2012.8.20 オルモック 10000 円

→5000p

・ その他

セブ空港税 550p/人

・ トライシクル

(マタグオブ→サンビセンテ) 25p/人

[おおよその旅費]

航空券	64,685
保険料	4,520
生活費	10,000
個人費	10,000
キャンプ参加費	1,000
	90,205(円)

[滞在中の収支]

● 支出

	内訳	費用
宿泊費	シランガン	1,650
食費	水	888
	食費	5,633
	小計	6,521
携帯	ロード	3,400
交通費	船	10,500
	バン	2,200
	バス	730
	モルティカブ	2,400
	トライシクル	360
	ハバルハバル	3,320
	その他	900
	小計	20,410
生活費	雑費	557
感謝料	Loklok さん	2,800
	Daddy	5,420
	小計	8,220
※その他	豚代	5,000
	マサバワーク費	10,000
	小計	15,000
合計		55,758

● 収入

繰越金	22,583
生活費	37,500
合計	60,083

全体の収支

60,083 － 55,758 = 4,325

※その他

・ 豚代：2012 年春キャンプのフェアエルパーティーで、FI が払うことになっていた豚代を渡し忘れていたため今回その豚代 5000p を支払った。

・ マサバワーク費：30 ページ参照

[反省]

・ 食料などを買い出しに行く人にお金を立て替えてもらっていたため、小さいお金がなくなった。
→買い出しに行く前にいくらかお金を渡しておいて、大きなお札をくずしてもらう。

・ 交通費がかさんだ。

・ 2012 年春キャンプのワーク費の残りを把握しておくべきだった。

15. KP (Kitchen Police)

[仕事内容]

KP：主にキャンパーの生活の管理をする係

１.洗濯、食器洗いの当番のシフト作り、調整

２.共同で使う生活用品(洗剤、ハンガー等)の管理

３.飲料水について

１.シフトについて

今回、洗濯を３人、食器洗いを２人でキャンプ中のシフトを組んだ。

日程に合わせ、できる限りキャンパー全員が平等になるように工夫した。

２.共同生活用品について

食器用の石鹸・スポンジはダディ宅や BRGY のものを借りた。洗濯用洗剤は、オルモックのスーパーマーケットで購入。ハンガー・洗濯に使う桶は、前キャンプで使用したものをそのまま利用。なお、この２つは本キャンプで使用できるように、現在ダディ宅で保管してもらっている。

３.飲料水について

フィリピンでは水道水を飲むと体調を崩す危険があるため、日本人はミネラルウォーターを飲む。衛生面を考え、個人用に各自１ℓのペットボトルを確保した。また、ミネラルウォーターは、マタグオブの中心地のマーケットでタンクを購入し、Survey のある時は各自のペットボトルに補給して移動した。

[反省]

- 生活用品の管理を他のキャンパーたちに任せてしまっていた。
- 洗濯物をため込まない。
- 生活用品をもっと購入するべきだった。
- 新ワーク地では、夜になると虫が大量発生するため、蚊帳や虫除けが必須。
- 本キャンプで買い足すもの：（日本）トイレの袋、虫よけグッズ
  （現地）洗濯おけ×２、洗濯たわし、手おけ

16. 保健

[仕事内容]

保健バッグの携帯・管理

メンバーへの声掛け

[保健バッグの中身]

ムヒ　マキロン　カットバン　体温計　爪切り　ガーゼ　はさみ　包帯　ピンセット　湿布　冷えピタ　下痢止め　風邪薬　解熱剤　胃薬

このうち、風邪薬、解熱剤、胃薬は、りょうさんから頂いた現地の薬であり、万一症状がひどくなり、日本から持参した薬が効かなかった場合にも効果が期待できる。

	薬の名前	色	形状	備考
風邪薬	COLVAN	黄色と緑	カプセル	100 ペソ以下/1sheet
解熱剤	PARACETAMOL	うすオレンジまたは白	錠剤	約 5 ペソ/1 粒 デング熱、痛み止め(頭痛など)にも
胃薬	Aluminum Hydroxide Magnesium Hydroxide Simeticone	ピンクの袋	錠剤	

[キャンプ中に使用したもの、その事例(頻度順)]

ムヒ…虫刺され

爪切り

カットバン…すり傷

マキロン…すり傷、虫刺されの消毒

風邪薬…頭痛、鼻水、のどの痛みなどの風邪の症状

湿布…打撲

冷えピタ…日焼け

[次回までにバッグに補充、追加しておくもの]

便秘薬　冷えピタ　テーピング　サバイバルシート　粉末ポカリ　太田胃散　正露丸　整腸剤

[推奨される予防接種]

※ただし接種は任意

・A・B 型肝炎　・破傷風

・日本脳炎　　・狂犬病

⇒　詳細は厚生労働省などの HP を参照

[反省]

今回のキャンプは下見ということもあり、怪我は少なかった。また、大きな病気もなく、病院に行かなければいけない、といったことは起こらなかった。保健バッグと各自で持参した薬でほとんど対応できたが、一部不足があった。次回のキャンプでは実際にワークを行うため、今回よりも怪我をしたり病気にかかったりする人が増えると予想される。次回の本キャンプまでの間に、現地で起こりうる様々なケースを想定し、上に挙げたものを多めに用意しておく必要がある。

17. 他己紹介

☆かんな☆

我等がリーダーしぇいよりイケメン岩辺かんな！特技はバスケとパワハラ。普段は元気いっぱいで笑顔が素敵なんだけど寝起きはほんとに怖い)^o^(子供とバスケをして遊んでる時とハラちゃんにプロレス技をかけている時が一番いきいきしてました(^o^)本キャンではみんなの為にも寝起きから笑顔でお願いします♡

From　なつき

☆しぇい☆

オトメンワークリーダー、しぇい！今回は唯一の男の子でした。眉毛の濃さと女子力は NO.1! 村の女の子を次々とメロメロにしていました☆（まぁ男子がしぇいしかいなかったからね。）老若男女問わずどんどん交流を広げていくしぇいはとっても魅力的だよ！本キャンも頼りにしてるかんね～☆ちなみに次携帯なくしたら眉毛全ゾリね。

From　かんな

☆なつき☆

なつきはスタイルが良くてきれいです。なつきの「Ako tugnaw so please hug me!❤」（寒いから抱きしめて！）で男はみんな虜になります。ただ変態チックな面もあります。いじめられそうになると「えー」と笑顔で嬉しそうに言います。下ネタを言うと「ふふふっ❤」って笑います。目がめっちゃ大きいのにフシ穴で B 専という説もあります。そういうところも魅力的ななつきです。

From しぇい

☆しほ☆

毎日、魅力的な寝顔で私たちを幸せにしてくれました☆(笑)そしてUFOを見たと本気で主張する素敵な一面も。けれども何より、ちょーちゃんの心の広さには、毎日感動の連続でした。いっぱい頼ってしまいました。本当にありがとう！ちょー素敵なお姉さんです(*^^*)これからも、頼りにしてます♡♡

From まーちゃん

☆はらちゃん☆

はらちゃんは常に体が傾いています。彼女は重力に抗う力を持っています。はらちゃんはお酒が好きです。彼女は勧められた酒を断ることはありません。でもその後がちょっと…になります。(笑)明るく素直でちょっと変。そんなはらのことが、みんなは大好きです♡本キャンプでもその傾き加減と、ドリンキング・マスターをよろしくね＼(^o^)／

From しほ

☆あやな☆

よく食べ、よく遊び、よく笑い、よく眠る。しっかり者で、大変なはずの会計も難なくこなす、才色兼備!!かわいい笑顔と、時折見せる凄まじい変顔でみんなを癒してくれたね(笑)誰よりも子供のことを考え、行きのバックパックは子供へのお土産でぱんぱんでした(^^)このキャンプ、あやながいなかったらとんでもないことになってたと思う…。あやな、本当にありがとう

From　はら

☆まーちゃん☆

まーちゃんは新キャンパーでさらに１年生一人やった!!で最初は緊張して静かなのかと思いよったけど物事に動じないタイプ?だんだん名前呼び捨てで呼んでくれるようになったのは嬉しかったよ(^^)/下見メンバーの中で一番大人っぽくてフレキシブル♡なまーちゃんが本キャンで誰を選ぶか…♡楽しみにしとるよ～(*^^*)

From あやな

18. 感想

【かんな】

今回のキャンプは私にとって今までと全く違うキャンプだった。過去 2 回のキャンプはどちらかというと上の人に「ついていく」感覚で、何より自分の感情に素直だった気がする。それに比べ、キャンプリーダーとして行った今回のキャンプはまず始まりから違った。3 回目でもう慣れているはずなのに、出発日は不安と緊張のせいで眠れず、前日に腐った茄子を食べたせいかお腹もこわしていた。こうして最悪のコンディションで始まった下見キャンプだったが、終わってみるとなんともあっさりしたものだった。でもよく考えると今までで一番悩んだし、一番泣いた。学んだこと・感じたこと・反省したことは数え切れないし、思い出すと後悔だってある。

まず下見キャンパーとの関係の中でいろいろなことがあった。日本では絶対にぶつからない人と何度もぶつかって、何度も泣いた。考え方やキャンプに対する思い、一人一人全然違うから、その「違い」をちゃんとお互いが認め合うことが大事なんだと思った。喧嘩したとき村人に心配をかけたのが申し訳なかったけど、頭を冷やすにはちょうど良かったし、何よりメンバーともっといい関係を築けたから結果オーライということで･･･。

そして次は村人との関係で学んだこと。今回マサバとマラサルテという２つの村が資金援助を求めてきた。私は前回のキャンプ地であるマサバ村はもちろん、前々回キャンプ地のマラサルテ村とも交流をもっていた。去年の下見キャンプで行われた evaluation で滞在したことがあったからだ。たった 1 週間程度の滞在だったけど、マラサルテ村の人たちは私の中でとても大切な存在になった。だから今回、マラサルテ村に資金提供しないことが決まったとき、とても心苦しくなった。マラサルテ村の村長にこの決定を伝えるとき、本当に涙が出そうになった。「私の大事な人が苦しんでる、お金を出して助けてあげたい。でもそれじゃダメなんだ。」そういう感情がずっとせめぎ合っていて、うまく村長に気持ちを伝えられたかもわからなかった。先にも書いたとおり、過去 2 回のキャンプでは自分の感情に素直だったけど、このことがあって、そればっかりが正しいとは限らないんだと思った。本当に村を、村人を大事に思うなら、感情を抑えて我慢する必要だってある。これからま

た同じ壁にぶつかるかもしれないけれど、そのときの感情に流されて何が最良の選択なのか見誤ることがないようにしたい。そして、その時「つらい」と思う気持ちは私の一番強い思いだから、否定せずしっかり受け止めようと思う。
きついこともつらいこともたくさんあったけど、相変わらずお酒を飲んで、ディスコをしていろいろな人と笑った。全部ひっくるめてすごく楽しかった。新メンバーといっしょに春行くのが待ち遠しくてたまらない。きっと次が最後のキャンプになるだろうから、集大成として今までで一番楽しく、一番充実したキャンプにする。
最後に、今回のキャンプに協力してくださった方に心から感謝。国内でも、現地でも、人とのつながりっていいものだと感じます。本当にありがとうございました。

【しぇい】

FI のキャンプの最大の魅力と思う下見キャンプ。一からキャンプを作る。FI に関わりはじめたのもここに惹かれたからである。自分たちにとって普通ではない普通が向こうの暮らしにはある。その改善のために自分たちの手で村や市を動かし、1 つの目的を達成する。技術や知識もない学生の自分が 1 つの地域に大きな影響を与えることができるってすごいことで同時にさせてもらってることをありがたく思った。
実際にキャンプに行くとなってミーティングも始まった。ワークリーダーとしてやらなければいけないことも先輩からいろいろ聞いた。実感はなかったが頑張ろうと思った。俺ってワークリーダーなんだと不安に駆られることも何度もあった。でも早々と時間は過ぎ、なにもしていない自分がいた。なにか考えはするが結局行動には移さないまま。なんとかなるの精神で目の前の問題に目をつむってばかり。国内合宿前に一度キャンパーがぶつかりそれで目が覚めた。俺って何もしとらんやん。なんとかなるって言ってなんとかならんやったらどうするんよ。なんとかなるは向き合うことを避けるときにつかう都合のいい言葉だ。誰かについていくんじゃない、今回のキャンプは自分たちで作るものという初心を忘れていた。何事も行動しないと何も変わらない。キャンパーとしてみんな役割をもっている。それは係のことでもあり、仲間内の関係でもあり。そこに自分の存在意義を見つける。存在意義を見失ったとき自分がキャンプに来た意味はあったのだろうか、ただついてきてい

るだけになってるんじゃないのかと不安になる。だから周りの助けになりたいし、頼られるようになりたいと思う。自分だからできることを探し、そこにまた存在意義を見出す。そうやって高めあっていける仲間がいるからこそいいキャンプができあがっていくのだと思う。

去年のキャンプで疑問が浮かんだ。なぜワークキャンプをするんだろう。これはただの自己満足じゃないのか。ただ好きで興味があって楽しいからやっている、確かにそんな理由しかない。でもその自己満足が他人にとってもプラスであるならそれでいいんじゃないかと思った。周りもそれで満足ならそれはもはや「自己」ではないのではないか。それでも悪影響はあるかもしれない。まず村の問題を解決できないだいたいの理由は資金である。資金を提供すればいくらでもインフラ整備はできる。それでも自分たちが実際に現地に行ってキャンプをするのはその悪影響をできるだけ減らしそれ以上のメリットを与えるためでもあり、そのことについて考えるのもキャンプを作るということの一つだと思う。ただそれには責任がついてくる。村や市を自分たちの手で動かすのだから。だからこそ確実にキャンプを『成功』させなければならないのであると思った。

今回のキャンプでダディには特にお世話になった。正直去年はあまり関わってなくダディはFIのことをとても理解してくれていると言われてもいまいちわからなかった。でも今回はとてもダディに助けてもらいそのことを身に染みて感じた。ダディの家での最後の夜、「毎年FIが来るのをマミーと楽しみに待っている。FIがマタグオブでキャンプをしてくれて本当に助かっている。ありがとう。いつまでもここでキャンプを続けてほしい。」と語ってくれた。あぁこれがつながりなんだなと思った。代々FI が作ってきた絆がこういうところにあるんだなと実感した。FI が今まで積み上げてきた絆があるからこそ自分たちはこうやって頼りにできる人がいてキャンプを行えるんだなと思った。OB・OG の方々、ロクロクさんとダディ、実玲さん、他の協力してくれた人すべてに、本当にありがとうございました。

さて、キャンプはまだスタート地点である。これからの頑張りが成功のカギを握る。一からキャンプに携わる者としてすることはまだたくさんある。目指すものはサンドニシオが第 2 の故郷になること。キャンパーみんながもう一度こんなキャンプをしたいと思えるようなキャンプ。全員で最高のキャンプを作っていこうな！

【なつき】

「またフィリピンに行くの！？」――春に本キャンプに参加して、今回の夏の下見キャンプにも参加すると周りの人に言った時多くの人がこう言った。自分自身本キャンプに参加している時は最初で最後のフィリピンキャンプだと思っていた。しかし、帰国して周りの人にキャンプの話をしてみると、「すごく楽しかった」という言葉しか出てこなかった。もっと伝えたいことがあるのに、感じたことはたくさんあるのに言葉がなかなか出てこなかった。本キャンプが終わって自分なりに達成感はあったが、下見キャンプから参加しているキャンパーたちとはキャンプに対する思いに差を感じ、自分も一からのキャンプ作りに関わりたいと思うようになった。

下見キャンプに参加して、FIWC とマタグオブ市との“繋がり”、人と人の“繋がり”を強く感じた。ダディとマミーはほとんど面識のない私たちを家に泊めてくれた。ノルウェルの方やメイヤーは MTG で survey についてやワークについてのアドバイスをくれた。ロクロクさんは体調が悪いにもかかわらず私たちを助けてくれた。実玲さんは survey にすごく協力してくれた。村の人々は私たちを温かく歓迎してくれた。これらは今までの FIWC の OB・OG の方々が築いてきた信頼関係があってからこそのことだと感じた。今回の下見キャンプで、今まで築かれてきた信頼関係がもっと深いものになっていればいいなと思う。

いろいろな村での survey で村長や村人と直接話して、FIWC が必要とされているということを身にしみて感じた。私は日本ではどこにでもいるただの大学生であり、特に誰かに必要とされているとは感じない。村人が私たち FIWC を必要としてくれていると感じ、とてもうれしかった。できることならば survey を行った村全部のワークをしたいと思った。FIWC を必要としてくれている村はたくさんあるが、来春のワークキャンプではみんなでたくさん悩んでたくさん話し合って決定したサンドニシオ村でしかワークをすることができない。だからこそサンドニシオ村でのキャンプを良いものにし、ワークを絶対に成功させたい。

最後に、キャンプでお世話になったダディ、マミー、ロクロクさん、実玲さん、3 週間一緒に過ごした下見キャンパーのみんな、反対しながらも応援してくれた家族、キャンプに関わってくれた人みんなに感謝したい。本キャンプでは、感謝の気持ちを忘れずに、参加する側ではなく主催する側という責任感を持ってサンドニシオでの日々を過ごしたい。

【しほ】

春に続き、二度目のフィリピンキャンプ。前回はすごく楽しかったのと同時に、下見メンバーが羨ましくも見えた。単にその場を楽しんでいるだけの私と違って、フィリピンに親しみを持ち、ワークキャンプそのものに対する思い入れも、彼らのほうがずっと強かったからだろう。自分が一から携わるキャンプへの達成感のようなものを、私も感じてみたかった。もちろん、現地の人々にまた会いたい、フィリピンに帰って来たいともすごく思った。ただ、私が今回下見キャンプに参加しようとする決め手になったのは、ワークキャンプというものをもっと実感したいという気持ちがあったからだと思う。

Survey の間は様々な村を見ることができた。同じマタグオブ市でも、こんなに違うのかとショックを受けることもあったし、逆に現地の人々の人懐っこさに心温まることもあった。ワーク地を決定した瞬間は、何と言えばいいのか分からないが、新しい緊張感のようなものが自分の中で生まれた。自分たちを必要としてくれていた他の村よりもサンドニシオ村を選んだこと、これから自分たちの手で作るサンドニシオでのワークキャンプが、今までの村人の日常を変えていくのだということ、このワークキャンプが FI の歴史に残っていくものでもあるということなどに対して、責任を一気に感じ始めた。こんな自分が、まだ知らない人たちにこれからたくさんの変化を与えていくのだ、ということを意識するようになった。今更なことを言うけれど、このときやっと自分が下見キャンパーなのだということを本当に自覚したのだと思う。

今回のキャンプで最も心に残ったのは、マサバでの Evaluation だ。正直、本キャンプの時は、誰かのためのワークという意識が無く、ただ道がきれいになったことが純粋に嬉しかっただけだった。それがマサバに帰ってみると、村のサリサリが増えたり、ハバルの数が増えていたり、他にもたくさんの変化が見えて本当に驚いたし、何よりも嬉しかった。Evaluation をしながら道を歩いているときは、多分ずっと顔がにやけていたと思う。そこには、私たちが帰った後もマサバの人たちが道のメンテナンスをしている形跡が見えたからだ。今回の追加分のワークも、村の人たちが自発的に行っていた。Evaluation をして、下見キャンプに来て本当によかったと心から思った。下見キャンプに行く前に、日本でぬけさんが言っていた話を思い出した。普段の村の

人の平凡な生活の中に、日本人という刺激を与えるのだという。前回のキャンプでは、毎日がお祭りみたいに楽しくて生き生きしていた。それが村の人たちの行動力を変えたのなら、私は次の本キャンプでも同じようになって欲しい。サンドニシオの人たちにも、私たちがいることを楽しんで、それを原動力に色んなことにチャレンジするようになって欲しいと思う。もっと色んな人と交流して、笑ったり感動したりしたい。自分たちのキャンプでも、たくさんの人たちに良い影響を与えられれば、と思う。
最後に、家族や友達を始め、こんな私を快く送り出し、日本でずっと見守ってくれていた方々、本当にたくさんの協力をしてくださった、ダディ、マミー、ロクロクさんや実玲さんなどの現地の方々に感謝の言葉を伝えたいです。そして下見メンバーのみんなにもたくさんお礼を言いたいけど、次のキャンプが終わるまで取っておくことにします。(笑) かんな、しぇい、まーちゃん、はらちゃん、あやな、なつき！本キャンプでもよろしくね＼(^o^)／♡

【はらちゃん】
2 度目のフィリピンキャンプ。参加したのは、前回の本キャンが本当に楽しくて楽しくて、また行きたい、また会いたいと思ったから。それから、前回の下見メンバーが、村人との再会を喜んだり、村の変化に感動したりしているのを見て、心の底からうらやましいと思ったから。誰かについていくのではなく、いちから下見をして、自分でキャンプを作っていってみたい、と思った。
私は、前回も少し感じたのだが、今回のキャンプでもどこかで罪悪感というか、うしろめたさというか…そのような感情を抱いていた。異国のただの大学生が、それまでの現地の暮らしを変えようとしていいのか、と。なぜだろうと自分なりに考えた。たぶん、自分のためにやっている部分が大きいから。現地の人のために…という思いはもちろんある。でも、上に書いたように結局は“自分が”行きたいから行っている。“自己満足だ”といわれたら、その通りなのだ。だが、下見キャンプ中の evaluation を終えて感じたことがある。マサバでは、バイクも増え、売店も増え、新しく建てられている家もあった。村の青年が、FI のワークで道がよくなったからだと教えてくれた。まだ不十分な所もあったが、それでも FI がやったワークが村にプラスの影響を与えていた。すごい、と思った。こうやって自分がやりたくてやったことが少しでも誰かの役に立つのならば、自己満足でもいいのではないか。自己満足がだめなのではなく、自己満足“だけ”じゃだめなのだ。自分は現地で思い出や経験などたくさんのものを得ることができる。だから、その分このワークキャンプを少しでも現地の人の利益につなげられるよう努力しなければならない。ただ、お金も

技術もないただの大学生である自分たちは十分なワークを行うことはできないかもしれない。それならば自分たちと一緒に、自分たち以上に現地人にも楽しんで、満足してもらう。そうやって一緒つくることやつくったものを互いにとってのプラスにしていけたら、それでいいのかな、なんて思った。しかし、自分たちが及ぼす影響は良いものばかりではないということは絶対に忘れてはならないことだと思う。

もうひとつ、この下見キャンプを通して強く思ったことは、すごくありきたりではあるが“出会いを大切に”ということだ。今回は本キャンのように一か所に滞在するのではなく色んなところをめぐった。その分色んな人に出会った。新しいワーク地も決まって、新しい友達も増えた。こんな日本の大学生が海を渡ってフィリピンの、しかもあんな田舎の子供、青年、おじさんおばさんたちと出会って一緒に過ごして、親しくなれるってすごいことだと改めて思った。この出会いの確率はどんだけちっさいんだろうか。国、文化、言葉、色んな違いがあるにもかかわらず、こんなに仲良くなれるって、人ってすごいと思った。この出会い、それからこれまでとこれからの出会いをずっと大切にしたいと思う。

最後に、今回の下見キャンプでは、自分が思っていた以上に色んな人に迷惑をかけてしまった。たくさんの後悔と反省がある。でも、それと同じ分だけ感謝している。ロクロクさん、ダディー、マミー、実玲さん、この下見に関わってくれたすべての人、キャンパーのみんな、本当にありがとうございました。次回の本キャンプは、今回学んだことを忘れず、村人たちといい関係を築いて、互いにとってプラスになるようなキャンプにしたいと心から思う。

【あやな】

2012 年春キャンプを終えて、私は下見に参加するかまだ迷っていた。キャンプはとても楽しかった。けれど私はただ楽しんでいてリーダーたちに連れて行ってもらっていたのだと感じた。だから下見からもっとフィリピンキャンプにかかわって様々なことを経験しもっとフィリピンのことを知りたい、いろいろなことを考えたいと思い参加を決めた。キャンプを終えた今本当に下見に参加して良かったと思う。下見では様々な村に調査に行ったが、私が今回の下見でもっとも感動したのは、前回のキャンプ地マサバ村で evaluation を

した時のことだ。まず調査した人全員が道のワークのおかげで道が通りやすくなったと答えていて嬉しくてさらにハバルの値段も安くなっていてとても嬉しかった。そして一番嬉しかったのは FIWC 九州の活動目的をどのように思うか?という質問に「村の経済を良くする」と答えた人がいたことだ。私が本キャンプに参加したとき、村の人の生活が少しでもよくなってほしいと思ったが、経済に影響を与えるなどとは全く考えなかった。だから、驚き感動した。日本人の学生が村の人々とワークをすることで村の経済を発展させることができるのだ。マサバ滞在中に村の変化を私たち自身が見て感じた。道がよくなったことで交通費が安くなり資材などを運ぶことができるようになったという理由から村の中に新しい家が建っていたり、お店が増えたりしていた。このような変化を自分の目で見ることができてとても嬉しかった。だからサンドニシオのワークでも村人と協力しながらワークをして川を通るときに危険でなく快適になるように頑張ろうと思った。さらに村の経済が発展すればいいなと強く思う。サンドニシオの子供たちはとてもかわいくてナナイやタタイたちもいつも私たちのことを気遣ってくれた。すでにサンドニシオのことが大好きだ。サンドニシオには英語のできない人も少なくなく、伝えたいことが伝えられなくてもどかしい思いをすることが何度かあった。まだ本キャンプまでは時間があるから、ビサヤ語を勉強して現地の人々と現地の言葉で会話ができるようになりたい。最後に、キャンプ中毎日一緒に過ごしたかんな、しぇい、はらちゃん、しほ、なつき、まーちゃん、お世話になったロクロクさん、ダディ、マミー、みれいさん、すべての人々に Daghan Salamat.

【まーちゃん】

「とーっても楽しかった！」私が今回のキャンプの感想を聞かれたときに、必ず一言目に出てくる言葉だ。

フィリピンで出会った人々はみんな温かく、たくさんの人に囲まれた生活はとても楽しかった。日本に帰り、一人暮らしの生活に戻って、改めてそのありがたみを実感した。マサバに行くときは、自分一人だけが新メンバーで、ちゃんと馴染むことができるのかかなり不安だった。けれども他のキャンパーたちが気遣ってくれて、私もすぐに打ち解けることができた。みんなすぐに名前を覚えてくれて、歓迎してくれた。とても嬉しかったし、安

心した。新キャンプ地である、サンドニシオに行ったときも同じだった。通りがかるたくさんの人々が「まーちゃん！」と叫んでくる。たった 5 日間の滞在だったが、心はかなり近づいたように感じた。言いたいことはうまく通じなくても、一緒にいて話しているだけで楽しかった。言葉は違っても、考えていることはきっと同じなのだろうと思った。けれども、あと一言が出てこなかった。まーちゃんは静かだね、と言われたとき、もっと勉強してから来るべきだったと後悔した。

日本に帰ってしばらくして、「楽しかった」としか言えない自分に疑問を感じるようになった。たったこれだけの感想を持って帰るためにフィリピンに行ったわけではないのに。向こうで触れた色んなことを深く感じることができてなかったのだろうか。私は何を学んできたのだろう。自分の役目はちゃんと果たせたのか。考えれば考えるほど不安になった。しかし、実際にフィリピンに行ったからこそ分かるようになったことがたくさんあり、向こうにいる間、「日本で聞いていたあれは、このことだったのか！」と何度も思った。下見キャンプに参加したことで、ワークを行う前にこのように現地の現状や、私たちがワークを行う意味を実感することができた。それだけでも、下見に参加した意味はあったように思える。

サンドニシオの滞在中に、私たちはまだ何もしていないのに、ご飯も、寝る場所も用意してもらってなんだか申し訳ないと思った。しかし、だからこそ本キャンではワークを成功させ、村のみんなに恩返しをしなければならないと思った。そして自分自身、今回感じた不安をすべて打ち消せるような、「楽しかった」よりもっと深い感想をもてるものにしたいと思った。

メンバーのみんな。何もできない私を連れて行ってくれてありがとう。次回はこの連れて行ってもらった精神は捨てます！そしていろんな面で支えてくださった皆さん。本当にありがとうございました！

≪フィリピン下見キャンプメンバー≫

リーダー	岩辺 かんな	(西南大２年)	ワークリーダー	浦田 菖平	(九州大２年)
イベント	神尾 夏季	(西南大２年)	KP	長 志保	(西南大２年)
記録	原 美咲	(九州大２年)	会計	松永 彩菜	(九州大２年)
保健	宮崎 真緒	(九州大１年)			

代表：青木雅詠 （西南大３年）

Mail: fiwcq@hotmail.com

Web: http://fiwckyushu.web.fc2.com/

（FIWC 九州公式サイト）

Twitter:@fiwckyushu

Blog: http://fiwcqp.exblog.jp/

(フィリピンキャンプ最新情報)